

第1回和田作業部会(わいわいサミット)議事録

開催日時: 令和8年6月22日 18時～19時30分

開催場所: 和田コミュニティセンター 集会室

グループ	A	B	C
参加者数	4名	5名	4名

- 地域福祉計画および地域福祉活動計画の策定:
事務局より、中津市における「わいわいサミット」の開催目的として、地域福祉計画と地域福祉活動計画の2つの計画策定が説明された。
- 地域福祉計画は行政による施策目標を定めた法的な計画であり、地域福祉活動計画は住民やボランティア、社会福祉協議会などが主体となり、市内15の地区ごとに具体的な目標や行動を決定する実践的な計画であると説明。これらは、高齢化や希薄化した地域関係により孤立する住民の問題に対処し、誰もが安心して暮らせる地域社会を構築するために今年度10月頃までの完了を目指して話し合いが持たれる。
- グループワークの趣旨説明と自己紹介:
事務局より、作業部会の進め方として、参加者が居住地域の自慢や個人的な体験を共有する形式が提案され、正解や間違いのない自由な意見交換が推奨された。参加者はテーブルごとに自己紹介を行い、居住地域の魅力や自身の活動について発表することとなった。
- 参加者から、自己紹介とともに自身が携わっている地域活動の詳細が共有された。観光ガイドとしての活動や、小学校での学習支援、慶應義塾大学の修学旅行生への案内といった事例が挙げられ、地域外からの訪問者との関わりや、地域内での教育的な取り組みについて説明があった。
- グループワーク①:
ファシリテーターの指示により、参加者は居住地域の「自慢できること」を付箋に書き出し、共有する作業が行われた。この作業では、物理的なインフラ環境から、人との繋がりや子育て環境といったソフト面まで、多角的な視点から地域の良さが出された。
- 参加者から、具体的な地域活動として、農業体験の実施、子育て環境の良さ、住民同士の助け合いの事例が報告された。また、ハード面の課題として防災対策や工業地帯の環境などが挙げられ、プラス面とマイナス面の両面から地域の実情が議論された。
- 各地区における活動組織の現状について情報が共有された。自主防災組織による訓練や、自治会単位での清掃活動(溝掃除等)、そして子供教室と児童クラブが連携した取り組みなどが紹介され、地域コミュニティが組織的に機能している様子が確認された。

- 他グループとの共有:
事務局の促しにより、各参加者は他グループが提示した意見を閲覧し、自身の考えに追加や修正を加える時間が設けられた。遺跡の存在や、他の地区で行われている特色ある活動などが共有され、地域資源についての新たな気づきが促された。
- グループワーク②:
住みたい地域をイメージする作業が行われ、参加者は必要な施設やサービスについて意見を出し合った。生活の利便性を高めるスーパーや病院、交通手段の確保、そして地域住民が集まり語り合える場の重要性等が議論された。
- 参加者は、近隣に住む住民の構成について、高齢者、子育て世代、共働き世帯、外国人住民といった多様な属性を挙げた。特定の地区では、若い夫婦の移住や三世帯同居などが見られ、世代や属性の混在する地域社会の現状が把握された。
- 今後の地域社会において、多様な住民が暮らしやすくなるための支援策が議論された。外国人住民の地域への馴染み方、共働き家庭における子供の預け先や夜間対応、および障害のある方の外出支援など、具体的なターゲット層に応じたサポート体制の必要性が検討された。
- 地域住民が日頃から挨拶を交わし、顔が見える関係を築くことで、緊急時だけでなく平時からの支え合いの重要性が指摘された。子育て世代が定住しやすい環境を作るため、地域で行われる交流事業の必要性が議論され、大人と子供が触れ合える場所を提供することで、住民の孤独解消や治安維持にも寄与できるとの意見が出された。
- 参加者から、コミュニティセンターの利用者に占める女性の割合が多く、男性が参加しやすい環境が不足している現状を指摘した。男性が退職後に社会から孤立するのを防ぐため、麻雀教室や男性が関心を持ちやすい交流企画など、性別に関わらず参加を促す工夫が必要であるとして意見が一致した。
- 高齢者や在宅で過ごす住民は災害時に取り残されるリスクが高いことから、地域として日頃からどのように安否確認や見守りを行うかが重要な課題として挙げられた。地域が小規模である特性を活かし、訪問しやすい体制を整える必要があると議論された。
- 最後に各グループごとに結果が共有された